

## 奥久慈桜開花調整について

### 1. ねらい

これまでの当管内の試験で、奥久慈桜の年内出荷には、①8℃以下の低温を延べ330時間以上遭遇させる必要があること、②促成前のシアナミド処理の効果は高いと思われること、③促成期間は約2週間程度で出荷可能である、等が示されている。

ここでは、年内出荷を前提として、必要低温遭遇時間と、最短スケジュールを実証する。

### 2. 試験方法とスケジュール

11月27日と12月4日に収穫した枝について、8℃以下の低温処理時間を変えて3区(表1)設定した。それぞれ低温処理した後に、全てシアナミド処理をし、12月6日から促成処理(室温24℃、湿度60%)を開始した。低温処理から促成期間は、継続して水上げを実施した。

(表1) 試験区

試験区	収穫日	低温処理期間	促成期間
I	11/27 (水)	11/27(水)～12/6(金) (9日間)	12/6～12/16 (10日間)
II	12/4 (水)	12/4(水)～12/6(金) (2日間)	
III	11/27 (水)	— (※)	

※III区は、日光の当たらない常温

### 3. 結果

8℃以下の低温遭遇時間は、(表2)のとおりで、I～III区のいずれの区でも、出荷適日は、12月16日であった。

(表2) 試験区の8℃以下の低温遭遇時間

試験区	自然(収穫前) 低温遭遇時間	+	冷蔵/常温 低温遭遇時間	=	合計 低温遭遇時間
I	212h		139h		351h
II	313h		31h		344h
III	212h		105h		317h

### 4. 考察

低温遭遇時間317時間の区(冷蔵処理なし)においても、年内出荷が可能であったこと、各区の出荷適日が同日であったことから、奥久慈桜の低温要求量は、さらに低いことが示唆された。

年内出荷における作業スケジュールは、収穫・束作り後は、水上げ(常温で2日間)、促成(10日間)で十分であることから、以下の最短スケジュールの提案が可能である。

これは、2019年の暖冬傾向の年に調査した結果である。

【奥久慈桜 年内出荷作業スケジュール（12/7 収穫→12/20 出荷）の流れ】



収穫・束作り（12/7）



常温で水上げ（12/7～9）



シアナミド処理（12/9）



促成（12/9～19）



出荷（12/20）